(十二日夕刊)
磐城新聞

休刊 大祭日の翌日第一第三日曜
定價 壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢
廣告料（雜報欄行五十錢 場所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
福島縣平町田町拾六
發行所　磐城新聞社　電話五六四番

貞操は生命よりも尊し（下）

城山隱士

一三、[illegible]ふが第一です[illegible]所持[illegible]へ巧み・人[illegible]へ連れ込む[illegible]が第一[illegible]です（此答[illegible]

一四、一度貞操を汚[illegible]せんら女の[illegible]此生命を賭して[illegible]從はせるのである[illegible]

一五、現在の女子は節か[illegible]ちばかり[illegible]かざるの修養が足りないから其弱點につけこまれるのです

一六、汚された身を永[illegible]たくありません私は死[illegible]讃美いたします

一七、直面しなければ其場の際は眞劍 言ひ得るせん汚された身で嫁いで行くことなどは日本婦人としては出來ません

○以上の答案を試に總括して之を分類すれば

一、斯かる場合を作らない様に務め注意すること
二、平常防禦の方法を習練し置くこと
三、三十六計逃ぐるに如かざること
四、容貌の莊飾よりも心の修養を爲すこと
五、懷柔の手段を講じ彼止むを得すんば最後の方法に出づること
六、死を以て貞操を守ること

等の數種であるが此中最も其數の多いのは死を以て貞操を守ると云ふのであります

○吾人之を讀んで實に痛快に感じた吾流石は大日本帝國の婦人であると聲を極めて絕叫せざるを得なくなつた諸君御承知の如く近來の婦人問題は經濟の進むに連れて或は[illegible]人の解放の男女同權の交際自由或は婦人參政權の婦人社會問題のと頗る我邦傳統的舊道德と異りアメリカあたりのモダンの新道德が輸入せられてそれで戀愛至上主義の自由結婚のと提唱せられ今日の學校教育を受けたる新令孃樣方は悉皆新道德に捕はれたる新らしき人々であるかと思ひきや此答案に依つて貞操は生命よりも尊しと云ふ頗る古き舊道德に統一したる事を始めて知つた

○良二千石は浪草稼業であると申した知學樣があつたが今日の新教育を受けた新婦人も是又浮草氣質であると申した文士もある夫は無論丸ビルあたりに巣をくふて居るモダン型の新婦人を稱する事であらうが夫にしても

浮草や今日は東にあすは西
そふ永あらばいなんとぞ思ふ

諸れも[illegible]德川時代の俗の云ふ[illegible]まつた女大學讀んでも見たが亭主一人は守られんといふのがある併しながら不義密通を爲したる者を一刀兩斷の下に斬ち切つて屆け出づるものならば御家安泰は當時の武士道である然るに今日の新婦人は貞操は瀉毛よりも輕く戀愛は生命よりも重しと思ひ居る婦人のみと思ひきや此答案に貞操は生命よりも尊しと云ふを聞くに於ては即ち德そうは[illegible]文大學的である智識は文化的にあると云ふを聞くに於ては我日本の婦人道は世界獨特の高尚なる光輝ある道德であると讃歎せざるを得ないのである吾人は實に我帝國のために祝賀の意を表す。

磐城顧問
（照會を歡迎す）

（問）四十二歲になる女ですが夫に先立たれ戸主となつて居ます、此度籍を實家へ戻したく先方へ問合せた處、裁判しなくては[illegible]ぬけぬどの事裁判せずに手輕にもどす方法はないものでせうか。亡夫は分家戸主でした（みつ）

（答）戸主は其戸主たる地位を脫退した後でなければ他家に入ることも出來なければ、實家に復籍することも出來ません、そして戸主たる地位を脫退するには隱居するか廢家するかの二途あるのみです又女戸主は年齡に拘らず何時でも隱居は出來ますが、完全の能力ある家督相續人の單純承認がなければならないことゝなつてゐますから、誰か其家を相續せしむべき適當の人があるのならば、其人を家督相續人に指定して其單純承認を得て隱居なさるがよいでせう若適用の家督相續人がないのならば致し方ありませぬから、裁判所の許可を得て廢家なさるべきであります、何故に實家に復籍したいと言はれるのか判りませぬが、其事實次第では裁判所は許可せられないとも限るまいと思ひます、其許可を受ける手續は裁判をすると言ふ程六ケ敷しいものではありませぬ

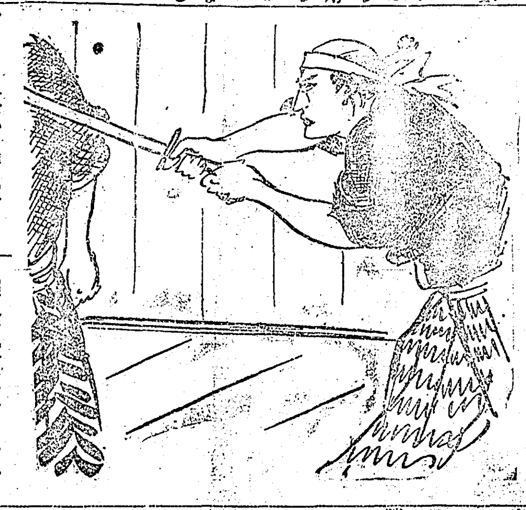
明日の吉凶

舊暦十一月二十日　新暦十二月十三日

▲一白　自分の運氣を損ひ苦勞する事ある日▲二黑　天馬空を驅る如き勢ひある大吉盛運の日▲三碧　薄利の日投機心を起こす時は大敗を見るべし▲四綠　油斷すれば幸運の神にあけらるることあり▲五黃　なやみあれど又々に助くるもの有りて立身す▲六白　戰々恐々身心共に落付きの無き日外出注意▲七赤　進むはよけれど不慮の出來事に注意すべし▲八白　願ひ事叶ふ日入學名ひろ・移轉等何れも吉▲九紫　遲運氣も怠らざれば夕までには伸びる

講談　血で血を洗ふ　(210)

高橋掬太郎創作　布施平八郎揮毫



傲慢な言葉

「拙者は本間家の家老早間重太夫と申する者以後お見知りおかれまするよう」

重太夫は挨拶した

「早間氏でござるかお初めでござる拙者は天下の浪人木下虎之助と申するもの又たこれなるは穴山熊之助と申する豪傑でござるがお見知りをきが頭ひたい」

自分から豪傑といふ傲慢な挨拶であつた

「承れば怪人を退治のためにお越し下さつたとやら…」

「如何にも當城下を通りがかりふと立札を拜見仕つたが大分怪人のためには困りのようでござるのう」

「いやお恥しい次第でござるがその怪人と申す奴は實に神出鬼沒、手に負へぬ始末でござる」

「左樣でござるか、それはお困りでござらう、よろしい討つて進ぜよう」

「有難うござる、見事にお討ち下さるならば新規召抱へ五百石をおつかはし申したい」

「はゝゝ拙者は何も祿が望みでない祿が望みならば我々のような豪傑や頭浪人は致しておらぬ祿は天下自然の福即ち天道樣の直參でござる、その點は御心配御無用たゞ一人や二人の怪人とやらに手を[illegible]してたられ[illegible]本間家の方々に勇士の腕[illegible]せ申したいのでござる」

何といふ高言であらう、本間家に人のないやうな暴言に流石の重太夫もむつと癪に觸つた、併し對手が恐ろしい面構への武士なので些か恐れを抱いて憤り立つ胸を撫でさめた

「いや天下に此のような豪傑が居られようとは只今まで少しも存ませぬ何分よろしくお頼み致す」

と兎に角酒肴を出して二人を饗應した、そこへどや〳〵とやつて來たのは毎夜交代で警護の任に當る重太夫の腹心の若侍達、五六人であつた。

「御家老おそくなりました」

「いや御苦勞でござる」

と重太夫は一同に愛嬌を振りまいて

「各々これにおられるは天下の豪傑木下虎之助殿と穴山熊之助殿でござる、今回城下の立札を御覽になり怪人退治のためにお越し下さつたのでござる」

と紹介した

「左樣でござるかそれは御苦勞千萬でござる」

と一同が挨拶した

「ところで木下殿に穴山殿甚だ恐れ入りまするがこれなる若侍達へ一手武勇の手本をお示しが願ひ度い」

重太夫は先程からの兩人の高言が癪に觸つてならないので稽古にかこつけてあはよくば兩人をたゝきのめしてやりたいと思つたのであつた

「よろしい承知仕つた」

と木下虎之助が庭先へ出ようとした

「あいや木下殿待たれよ先に拙者にやらせて頂きたい」

と穴熊入道が先きになつて庭に飛び降りてしまつた

「御隨意に」

と木下は任せた

「それ各々方よろしいか」

と重太夫が若侍に命じた

「はつ、畏つてござる」

若侍達は何れも血氣に腕を鳴らして庭へ出た

「さあ來い」

入道は[illegible]手で突立つた

「あいや穴山殿何をお持に[illegible]」

[illegible]ど[illegible]いた、

「い[illegible]ぬさあどこからでも打ち込んで參られよ」入道は平氣であつた

と[illegible]入道が高言を吐く[illegible]わつた若侍等は口では[illegible]ても云はぬが目では互に如を叩きのめしてやらうと[illegible]き合つた

「さあ一人や二人[illegible]面倒だ一度に掛つて來るがよい仕度はよいかさあこい」

入道は叫んだ

「やッ――」

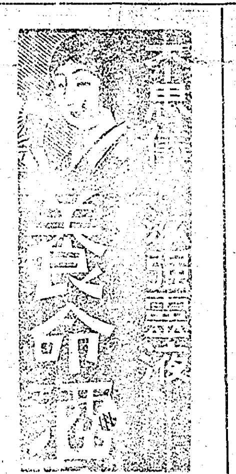
入道の聲の終らぬうちに隙を狙つて一人が鋭い氣合をかけて打ち込んだ、入道はにつこり[illegible]

宮内省御用達

ヒゲタ醬油

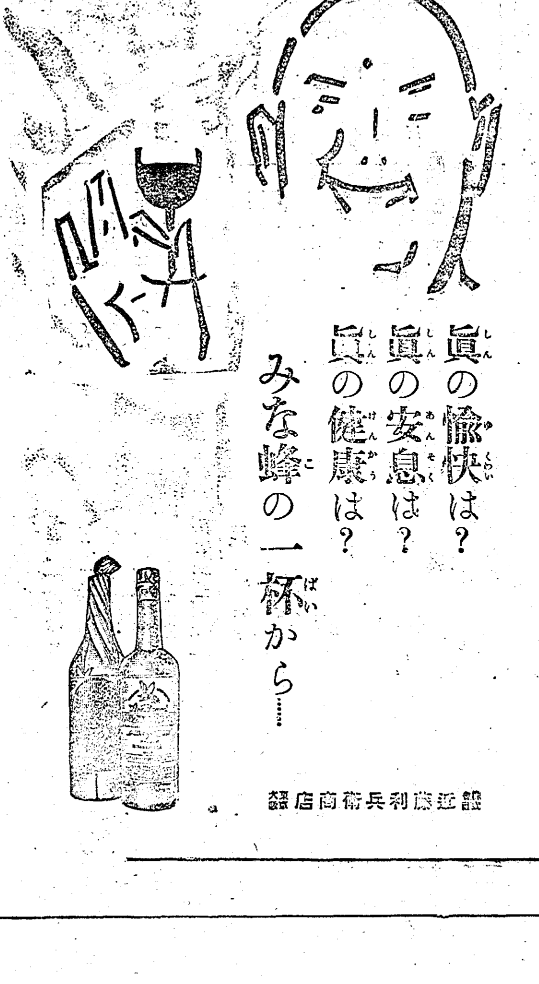
釀造元　銚子醬油株式會社
平町田町
特約店　廣瀬支店
電話五四番

御婚禮　御年會　御宴會
御忘年會　新年會
特にご勉強いたします
割烹　末廣
電話四三



肺結核、肺炎カタル、ロクマク、性的不能、神經衰弱、不眠性、貧血症、婦人病等の特異靈劑なり、其偉効に實驗者は驚く賣行きの增大するを與て其眞價を立證せらる、惱み苦しむる人々の一大福音なり
此際是非御試用を切に勸む
定價　一、五〇　二、〇〇
代理店　山野邊藥局　平町五丁目角

營業品目　絹糸、綿糸、紡績糸、染糸、組紐糸、漁網糸、人造絹糸、カタン糸、綿日用加工糸、眞綿、其他糸物一式
東京市日本橋區通油町
株式會社　藤掛商店　電話[illegible]三五一番　[illegible]三四〇番
小店員募集　十五才以上十七八才迄　五名
小學校卒業程度御希望の方 磐城新聞社御由で下さい。委細面談



蜂ブドー酒
眞の愉快は？
眞の安息は？
眞の健康は？
みな蜂の一杯から……
『蜂印香竄葡萄酒』といふ名稱を皆樣のお奬めに依り今後『蜂ブドー酒』と改めます 尙市場にある從來のものは其儘として追々に『蜂ブドー酒』と改めます
製造元　近藤利兵衛商店

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門
平町南町
上田外科醫院
電話一二九

平町田町
高久病院
電話五一三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
内科、小兒科、外科、花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科

齒科日曜一般
診療時間（午前九時ヨリ午後五時マデ）
但シ急患ハ此限リニアラズ
平町南町成田山前
鈴木齒科醫院
齒科醫　鈴木五郎

日東のラジオ
最新高級のラジオ製造販賣
並に部分品提供
御用命次第店員をお伺ひ致させ懇切御相談に應じます。
平町白銀町
日東商會
電話四二八番

小名濱港の修築は
眞に千載一遇
民政派の反對を憤り
中野氏熱心奔走

小名濱築港問題に對する民政派に於ては黨略上反對否決しやうとしてゐる[illegible]全體の利益になりしかるをの工費の半分は國庫の負擔であり殘り半分のうち百萬圓は淺野總一郎氏の寄附によるといふで縣としては眞に千載一遇の好機であるよつて是非共これが斷行をなさねばならぬとし又縣民多數もこれが實現を希望してゐるが獨り眼中黨利黨略あるのみにして國家人民の福利を顧みざる民政黨はシヤニムニ反對せんがための反對をしてゐるが民政黨中にても中野寅吉氏の如きは、滿蒙政策の實現上朝鮮の元山、城津、淸津、雄基の諸港と新潟線を結び、新潟、會津若松、郡山、平、小名濱を聯絡し更に米國と結ぶ關係上小名濱築港は燒眉の急務[illegible]然るに頑迷なる民政黨一部の策士が徒らに對反してゐるが如きはもつての外よくないことであるとかん〳〵怒り出し朝鮮や滿洲の經濟事情を調査した書類を一抱ね持ちまわて〻民政派の縣會議員に小名濱築港に贊成するやうに觀說大につとめてゐるが當の中野寅吉氏は語る「民政黨でも會津、四縣議は原案に贊成してゐる、僅か國家的見地から築港の必要を力說してゐるのに民政黨の機關新聞が色々ヤカミ、ソネンで中傷的の記事を書いてゐる甚だ怪しからん」云々と語り大いに原案通過の運動を試みんとしてゐる

當分は間に合せて
理想の校舍新築
第三校の計劃に進む
平町學校委員會

平町第一二小學校增築並同町商業學校　移轉問題が第三小學急設論をはさんで決定難を告げてゐたは既報の如く同委員會は去九日午後一時重ねて同町役場に開催されたが前回の協議で大體確定と見られた前記增築による商業校の舊磐中移轉を覆して三校新設しようとする

兩論の折衷案である

舊磐中內の廢校舍修理から意見は又々再轉して第一二校の二階建增しを各平家六教室づゝの增築に改め更に第三校新築を急ぎ何れも昭和四年度中迄に竣工の豫定を以て此間小學兒童を[illegible]校舍修理內に忍ばしめ商業校を磐中に移した跡の敷地並に校舍等の賣却を正式に確定したる上起債の手續を履んで財源を整ふことゝ惡くはあるまいといふことになつて同四時散會した同計劃も決定迄には尙研究協議を要するであらうが第一二校の增築並に第三校新築を何れも

來る四年度乃至五年度初め頃迄としたるもの

は義務教育の延長を見越其建築構圖の變更を考慮したもので商業校は移轉と同時に縣立昇格の遺憾なき準備を整ふる由である

九品寺境內へ
太子堂建設
工費約四千圓

平町太子講では仲間町九品寺境內へ太子堂を建設せんと幹部等が奔走中であつたが愈々九日の臨時總會で建設する事に決定したのを本月十五日頃から工事に着手すべく諸般の準備を急いでゐるが建築位置は九品寺境內東側空地で工費約四千圓の豫算であると

來春三月頃迄で
首繼ぎを懇願
支部の解散を條件に
品川爭議の後報

湯本町品川品煉瓦工場の爭議は約二ケ月の長きに亘り會社側の强硬な態度に反し爭議團側の足並くずれ遂ひに去る六日爭議の主謀者たる小野繁三外九名が馘首する事として解決したこと本紙既報の如くであるが昨十一日午後一時馘首された前記小野繁三外九名は來年三月頃まで馘首を猶豫して貰ひたいと洲川同工場長まで願出たので會社側は詮議の上同工場勞働組合支部の解散を條件に馘首猶豫を許すこととなり復職したが本郡地方各炭礦に於ける勞働團體昨今の情勢は極めて穩かで警察當局の豫想を裏切り當分のところへ何事もなし得る能力を喪つた樣な姿にあるがこれは年の瀨を控いて深刻な不景氣に脅え馘首の怖ろしさを感じての止むを得ざる隱忍だと見られてゐる

福島電話
土木政策を指摘
鈴木辰三郎氏質問の
縣會十四日目

本縣會十四日目の當日は舟橋東道路案その他の重要案が人氣を呼び傍聽席は蒔司詰めの滿員を呈した、本郡選出政友派議員鈴木辰三郎氏登壇し土木政策について質したいと前提し

縣の土木費使ひ方を見るに大体破襲的使ひ方になつてゐることを思はせられる、先づ第一に砂利の使用に就いても價格の標準をとつたらどうであるか、次に橋梁架設に際して路面と平行する別道路の費用を橋梁に加算したら如何、次に堤防費の復舊であるが平素の水害調査によつて根本的の復舊工事をするの意志がないか、常に破壞されてからやると云ふ方針は縣の經濟政策より見ても最も談れるものだと思ふ

と鋭く突つ込み、更に縣道移管浚郡道に就いて質し

此の移管浚道路の救濟策として各町村に補助を交附しては如何次に產業道路に關してであるが本案を見るに必ずしも縣下各地方を萬福してゐるものではない

と極言して石城郡各道路の實際に就いて述べ

次に小名濱商港が第二種港灣として指定されるまでの經過に就いて伺たい本計畫は云ふ迄もなく本縣會を通じての大問題であり、是れが通過するか否決するかは目下形勢混沌としてゐるものである

といよ〳〵小名濱問題を擔ぎ出し民政派の反對に對し先手を打つべき策戰から讃美論を試み

是れに對し指定されたる理由と經過を當局から委しく承はりたい

と結んで降壇、比の時例のドンキホーテ鈴木周次郎君發言を求めたが太田議長取合す參與員を呼ぶ半井內務部長登壇し

小名濱商港の指定經路に就いて答へしたい、本計畫は既に大年十年縣會に於て滿場一致の要望となつて現れたもので其後歷代知事はひとしく實現に最善の努力をして來たのであるが、而して本年伊東知事の着任に依つて漸く此處に具体化を見たものである

その他主務省との交渉細目に就いて委しく說明し

銚子以北唯一の良港として海上交通の便から見ても國家的見地から見ても一日も早き實現を必要とするものである、詳細のことは委員會に於て數字を以て說明する

と懇切叮嚀なる明答を與へて降壇したが鈴木縣議は少數黨の政友會が如何にせば多數派民政黨議員をしてアツと言はせ縣民に利益を齎らすべき決議か出來るかを非常に苦心し縣民もまた同氏の活躍に期待する處が多い

平の靑訓生
行軍演習
きのう片濱へ

平町靑年訓練所では既報の如く過般行はれた査閱に於て其成績が全國的の優秀であつたとの講評を磯間査閲官から受けたので訓練生の慰安を兼ねて行軍を行ふこととなつた豫定の十日が雨天の爲十一日に變更されたが行軍は當日午前六時三十分平商業學校庭に集合七時出發し箸で高久豐間江名等を經て小名濱に行軍動作を行ひ同町に宿泊し慰勞茶話會を開いて所生の演說をはじめ隱し藝等迄も各自發表し歡を盡すことゝし翌十二日小名濱町より途中對抗演習を試みつゝ湯本町に出て夕刻歸町した

酌婦に科刑
春を賣つて拘留

內郷村大字宮飲食店水戶屋支店藤沼マツ方抱酌婦栃木縣鹽谷郡篠根村生れ藤田ウメ子(二七)は去る十日夜同村磐炭坑夫赤川孫八から金一圓五十錢を貰つて春を賣つた廉で平署に探知され取調の上拘留三日の灸を据わられた

不景氣を好機に
水道擴張計劃
諸材料の安いが幸ひ
平水道部立案

平町の上水道工事は過般完成したが現在の設備では到底大工業力面の給水申込みに應じ兼ねる現況で縣內第一の町として工場が一つもない原因は水に乏しいためで好間川から更に一ケ三分だけ增量取水し得る權利あり町發展の上からも又工事施行も現在が最も容易でたとへば鐵管の如き一時一噸三百八十圓以上したものが現在は百七八十圓に暴落しセメント一樽につき三圓以下の下落又人夫の勞銀も二圓以上であつたところ目下は一圓二三十錢で不景氣の際事業を起すことは得策といふので工費二十萬圓前後を要する水道擴張を近く調査立案するといふ

讀者と記者
罪と騷ぎの差
研町　阿部　豐

◇一人の娘が暴漢に殺された、そして懷中物を奪はれたといふことは確に一つの事件に相違ないが、世の中にはもつと深刻な、もつと慘酷な犯行はザラにある事件の性質から云へばその娘殺しなどは極めて平凡の部に屬すべきものである

◇本田芳枝子殺しが最近に珍らしいセーシヨンセンを以て迎へられたのは事件の[illegible]に對する興味より少將の娘、稀な才媛、中等學校の教諭といふ說明的材料が世人の耳を目を刺戟した爲めに外ならぬ、評判が大きかつた所から犯人そのものが極惡人でもあるかのやうに取られてゐるが

◇今日までの犯人の性行もあつけない程平凡であつた犯罪の動機も犯人の自白によると金に窮した一時の出來心でこゝとに盡きてゐる、勿論一時の出來心で矢鱈に人を殺されてはたまつた譯でなく、その罪のゆるすべからざること亦元より論はない、只併しそんな大罪を犯さねば生きて行けない、食ふ爲めには手段を撰べない程に窮迫した人間が、家族が吾々と日を同じうしてゐるといふ事實には考へさせられるものがあるではないか

◇犯人の自白の中に子供の蟇口を拾得橫領したといふことがある、罪を以て愛見の笑ひを購ふ、この現代悲劇の前に吾々は社會人として何等の責任を分擔せずに濟むであらうか、これは必ずしも道德的意味からばかりの問題ではない、犯罪防止といふ點からもつと考慮されねばならぬことだと思ふ、何となれば生きる前に盲目となりつゝある窮者が必ずしも今度の犯人一人だけだとは言ひ得ぬから

◇それにしても此の事件の報道に當つた各新聞が部分的記事採削に示した周到な注意は、近來の快心事である、しかも國家の定めたる法律の罪名中に醜惡な非文明的な文字の平氣で使用されてゐるなど何といふ皮肉さであらう。

勲章を笠に
詐欺漢丑松
平署に捕はる

茨城縣久慈郡下小川村大字森金生れ當時住所不定無職前科三犯菊地丑藏(三七)は去る十月中栃木縣字都の宮刑務所を出獄後諸所を徘徊し日獨戰爭に出征した勇士だと自稱し功七級金鵄勳章の略章及軍隊手帳下士適任證等を振り廻して巧みな詐欺を働き栃木、茨城の二縣を始め會津地方等で二十件餘に亘る惡事を働らき本郡湯本町佐野屋旅館に於いて同樣の手段を以つて金拾圓をせしめた事平署の探知するところとなり昨九日午前七時湯本町其飲食店に潜伏中を逮捕されたが本縣のみにても被害約一千餘圓に達する見込であると

列車にはさまれて
奇蹟的に助かる
植田驛のホームで
行商の若い女

石城郡植田町金畑櫛田栽縫店の櫛田テル(三九)は去る八日午前十時五十分植田發ノ下り列車で行商に出かけやうとしてプラツトホームに入るや汽車は既に動き出したのであはて〻飛び乘らうとしたが、背に負ふた荷物が車輛にひつかゝつて乘るも降りるも出來ぬ窮狀となつた?汽車はそのまゝ動きつゝあるので、乘客の一人が漸へ荷物をはづしてやつた爲めテルはホームに飛び下りやうとしたがあやまつてホームと列車との間に墜落し列車は勢びを增して走り出すテルは身動きもならず觀念の眼を閉じつゝ八幡宮の方を向ひてホームの石垣にひた〳〵身を橫につけた車輛がキーキーと觸れることに着物は裂かれる、猶も一心に身を橫たへて神を念じ〻ゐる間に幾輛かの車は過ぎ去つた

ホツト太息をついて起き上がるとセルの着物は車輛に觸れてヅダ〳〵に破れたが、不思議や墜落の際肩の附根の骨を少し痛めたのみで擦過傷一つ負はなかつた、テルは墜落の際橫になれ橫になれと神の聲を聞いたと云ふてゐるが、多分乘客が注意したのであらうそれにしても命が助かつたのは一の奇蹟と見られてる

停車場の待合室に
爆彈の風呂敷
水戶で危く發見した
危險千萬の仕業

石城郡川邊村大字小川農田子直長(二四)は十日午後二時半頃水戶驛待合室の腰掛の上へ獵用のダイヤモンド印無煙火藥二百二十五グラムSS印無煙火藥二百グラムBM印黑火藥百匁、紙雷管百七十二個普通雷管二百個外雜品五十六點を入れた風呂敷包を置ざ便所へ行つた際何者にか竊取されたので水戶署に急報直に犯人搜査に着手したが風呂[illegible]行と染拔いた靑色地メリンスで水戶市柵町川崎錢五郎方高根澤庄三郎(二二)が持つて行つた事判明取調の上現品は被害者へ下渡されたが全く惡戲としても危險千萬な事である

綴方講習會
菊田方部會で

石城郡教育部會第一區即ち植田町を中心とする舊菊多方部教育諮習會は來る一月四、五、六の三日間植田小學校に於て開催するが課目は綴方講師は東京高師の飯田常作氏である

女も混じる
平町の賭博
女將一人逃走

平町字南町飲食店富久美屋支店女將笹川トメ(三三)內緣の夫小柳八百造(四三)當時住所不定無職双葉郡上岡村生れ猪狩高之助(四一)平町新田町料理屋梅林女將河野シン(四五)同新田町料理屋麻屋女將小林トキ(四五)の五名は昨十一日午後十一時頃前記富久美屋の裏座敷に於いて現金賭の花合賭博を開帳中密行中の平署高子、荒井の二巡查に探知踏み込まれ一網に檢擧されたが小林トキは隙を窺つて逃走した

時言

中野寅代議士、脫黨を賭して小名濱商港の速進に奔走す、本郡選出民政黨縣議の三省一番を望むや切である

□

吾人はそこに多少の思惑と驅け引きを否定せない然し萬一飽くまで反對に始終する者あらば、斷然その責めを糾さん

□

馘首された爭議團員が組合支部の解散を條件に來年春までの首繼ぎ願ひ聽許さる、何と外聞の惡い態たらくでないか

□

不景氣の時に安い材料で工事をするのと、好景氣の時に高い材料で工事をするのとが、そこにどら程の利益の差がある

財界不況に伴ひ値下斷行
十一月二日ヨリ
カツレツ　二十錢　カレイライス　二十錢
メンチカツ　二十錢　ハヤシライス　二十錢
ハヤシビフ　二十錢　ポークライス　二十錢
御酒　一本　二十錢
右品出前モ同値……
西洋御料理
カフエータヒラ
平町一丁目(電話六二〇番)

商標　登錄
釀造元
福島縣平町
山崎合名會社
電話　營業部一〇番　釀造工場二七番
振替東京一九七五五番
東京支店
上野車坂町四三
電話下谷五七二三番
振替東京六八三二二番

三井呉服店の陳列會於新舘
◈今秋流行新製品　十一月一日ヨリ
一ショール
一着尺モスリン　商品豊富
一友仙モスリン
◈店内には紅葉と自慢の菊花
京人形とアメリカ人形陳列是非
御來觀の程奉希上候
◈たつこめ特價品
▲白時雨毛　一丈物　九十錢
▲珍柄ネル　一丈物　一圓二十錢
▲白キヤラコ足袋　二十錢
▲黑朱子足袋　三十錢
▲鬼コール足袋　二十八錢
平町三町目
三井呉服店
電話三十八番

入院隨時(自炊の便あり)
耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平町南町(電一七〇番)

營業種目
內地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達
請負　其他
佐藤材木店
常磐線平町新川町
電話三三五番